

<新型コロナウイルス感染症予防接種説明書>

1. 新型コロナウイルス感染と症状

新型コロナウイルスに感染した人の咳やくしゃみなどによりウイルスが空中に広がり、吸い込むことによって感染します。38度以上の発熱、喉の痛み、頭痛、関節痛、味覚嗅覚障害など風邪に似た多様な全身症状が現れます。特に高齢者、基礎疾患(慢性閉塞性肺疾患(COPD)、慢性腎臓病、糖尿病、心血管疾患、肥満等)のある方は重症化しやすく、重症化した場合、肺炎等の合併症が現れ入院治療を必要とする方もいます。また、WHOの研究では感染した後、約10～20%に倦怠感、咳、息切れ、脱毛、記憶障害等の症状が発生すると報告されています。

2. 新型コロナウイルス感染症予防接種の有効性

新型コロナウイルス感染症のワクチンを接種すれば、新型コロナウイルス感染症にかからないというものではありませんが、国内外で実施された研究などにより、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化を予防する重症化予防効果が認められています。

3. 新型コロナウイルス感染症予防接種の副反応

比較的多い副反応として、接種した場所の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、悪寒、吐き気、下痢等がみられることがあります。頻度は稀ですが、ショック、アナフィラキシー症状(発疹、じんましん、赤み、かゆみ、呼吸困難等)が見られることもあります。接種後すぐに起こることがあるので注意が必要です。

4. 予防接種を受けることが適当でない方

- ・明らかに発熱(37.5度以上)をしている。
- ・急性の重い病気にかかっている。
- ・ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症の症状が出たことがある方。
- ・その他、医師が不適当な状態と判断した場合。

5. 予防接種を受けるに際して、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ・抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある方(筋肉内注射のため)
- ・心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患がある方。
- ・過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある。
- ・過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方。
- ・過去に予防接種を受けて接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状が出た方。

6. 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- ・接種直後30分間は、急な副反応が起きることがありますので医療機関で様子を見ましょう。接種後24時間は副反応の出現に注意しましょう。
- ・接種当日も入浴できます。接種した部位はこすらないようにしましょう。
- ・接種当日の過度な運動や飲酒は体調の変化をきたしやすいので避けましょう。
- ・接種部位の異常や体調の変化があった場合は、医療機関を受診しましょう。
- ・ワクチン接種後4日程度の間、胸の痛みや息切れ等の症状がみられた場合には医療機関を受診しましょう。

7. 予防接種健康被害救済制度について

予防接種法に基づく定期の予防接種が原因で、生活に支障が出るような後遺症等の健康被害が生じた場合、医療費、医療手当等、予防接種法に基づく救済制度が適用されます。但し、その健康被害が「定期予防接種を受けたことによるものである」と厚生労働大臣が認定した場合に限ります。